

Australian Currency – Notes

1788年にオーストラリアがイギリスの植民地にされた時から、イギリスの通貨、ポンドを使っていました。世界の反対にあるオーストラリアに金が届くのがとても遅くて、人はよく他に持っている物で商業をしていました。1910年、オーストラリア連邦が成立した9年後、ポンドをもとにオーストラリアポンドが作られました。ポンドのシステムでは、1ポンド=20シリング、1シリング=12ペンス、1ポンド=240ペンスということでした。

このシステムは、計算の時に無駄に難しいもので、1966年に、前回紹介した今使っているデシマル・システムという計算方法が設けられました(1ドル=100セント)。

今回はオーストラリアの紙幣を紹介したいと思います。最初の紙幣は紙で出来ていましたが、1988年にオーストラリアは世界で初めてポリマー紙幣を製造し、使用する国となりました。この画期的なポリマー幣は紙より清潔で、耐久性に優れ、リサイクルも容易です。「現金の未来」と呼ばれ、ポリマー幣は現在45カ国以上の国で使われています。

オーストラリアの紙幣は\$ 5、\$ 10、\$ 20、\$ 50、\$ 100の5種類があります。どれも違う色がついてい



5ドルに女王エリザベス2世が表されています。オーストラリアはイギリス連邦に入っているため、イギリスの王者が国家主席です。裏はオーストラリア国会議事堂が表されています。

鳥: Eastern Spinebill (キリハシミツスイ)

花: Prickly Moses (スターリーフアカシア)



20ドルにはMary Reiby (左) と牧師John Flynn (右) が表されています。Mary Reibyは最初囚人としてオーストラリアに到着、後に海運業と貿易業を営む優秀な実業家になりました。John Flynnは現在ロイヤル・フライング・ドクター・サービスとして知られる世界初の航空医療サービスを創設しました。

鳥: Laughing Kookaburra (ワライカワセミ)

花: Box-Leaf Wattle (アカシアバクシフォリア)



100ドルに国際的に有名になったソプラノ歌手、Dame Nellie Melba (上) と第一次世界大戦で活躍したエンジニア、軍司令官そして市民指導者であったSir John Monash (下) の国際的貢献をたたえています。

鳥: Australian Masked Owl (オオメンフクロウ)

花: Golden Wattle (アカシアピクナンサ)



るので、一瞬で見分けることが出来ます。特によく使われている赤色\$ 20と黄色\$ 50はオーストラリア人にそれぞれ「ロブスター」と「パイナップル」と呼ばれています。全部ではオーストラリアとオーストラリア文化にとって重要な人物とその実績がたたえられています。各幣に透明な部分もあって、その中にそれぞれ違うアカシアとオーストラリア固有鳥が描かれています。そして紙幣の上の角と似顔絵の下に触覚的な凸凹があります。これは手で触っただけでも金額が分かるようになっています。オーストラリア紙幣は下記のようなのですが、白黒ではあまり色と細かい部分が見えないので、皆さん是非後で調べてみてください！



10ドルにオーストラリアの2人の有名な詩人が表されています。左: AB 'Banjo' Paterson

右: Dame Mary Gilmore。2人の隣に詩の抜粋が書いてあります。Banjoが書いた「The Man from Snowy River」は特に有名です。

鳥: Sulphur-Crested Cockatoo (キバタン)

花: Bramble Wattle (アカシアビクトリエ)



50ドルは発明家であり、オーストラリア初の原住民作家David Unaipon (左) とEdith Cowan (右)、オーストラリアの初めての女性政治家で女権運動のために強く戦った人物が表されています。それぞれの隣にDavidの本の抜粋とEdithが国会議員になったときの処女演説が書いてあります。

鳥: Black Swan (コクチョウ)

花: Acacia Humifusa (アカシアフミフサ)

※ Brettさんの原文をほぼそのまま掲載しています。